

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム向が丘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	知県名古屋市中白区天白町大字平針字黒石2878番110の
記入者名 (管理者)	杉浦 義教
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を『あなたと、ともに』と定め、住み慣れた地域で、利用者が、その人らしく暮らし続ける為に『本人』『家族』『地域の人々』『施設の職員』などの人々がチームとなって、ともに支え合いながら、家庭的な地域住民との交流を行える関係づくり・環境づくりを目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・施設理念の掲示 ・「あなたと、ともに」の理念に基づいて、1週間に一度フロアミーティングを開催し、理念の実現に向け取り組んでいる。 ・「観察メモ」というオリジナルのメモを利用者一人ひとりに作成し、その人に着目した記録の記入を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・契約時ご家族様へ理念の説明をしている。 ・見学にきた地域の方などに玄関に掲げた理念を見ていただき説明を行っている。 ・ひらばり婦人会やの会合などで、理念や事業所の実践を伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・買い物に毎日出かけることにより、お店の人(地域の方)と顔なじみになっている。 ・事業所内にて「寄り合い茶屋ひらばり」(喫茶店)を開業し、地域の方が気軽に出入りできるように工夫している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事(消防訓練・夏祭り)などに参加し地域交流を図っている。 ・同一建物内にある小規模多機能型居宅介護ひらばりが開催する行事(クリスマス会など)へ合同で参加をし、地域の一員として地域の方との交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・『ひらばり婦人会のイベント』や、『寄り合い茶屋ひらばり』などで、当施設が介護の相談窓口であることを伝え、地域の方々からの認知症の相談を受け付けている。 ・回覧板やインターネット上のホームページで相談窓口を広く設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・今回、外部評価を受けるにあたり、外部評価の意義を話し理解を深めた上で、複数の職員で自己評価に取り組むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・前回の決定事項の確認をした上で、事業所の活動報告を行い、参加していただいている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、意見を頂き、参考にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・名介研の名古屋市グループホーム分科会の打ち合わせを通して、名古屋市職員と話し合い、サービスの質の向上に向けて具体的な取り組み方法などを模索している。 ・地域運営推進会議に名古屋市の担当職員に参加して頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当社において、成年後見制度を利用している人がいるため、ミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修において、「虐待防止」社内研修プログラムを組み入れスタッフの参加をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して不安なく利用ができるように丁寧な対応を心掛けている。 	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察メモを用い、利用者の状態の変化や・不安・不満の訴えをスタッフ全員が把握ができるように、週一回のフロアミーティングで利用者一人ひとりの状況の報告と対応について話し合い、情報を共有している。 ・利用者の希望を元に、旅行へ出かけるなど、利用者意見を反映したレクの実施を行っている。 	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態や状態の変化があれば、そのつど電話にて連絡している。 ・毎月、担当職員より、請求書と一緒に、「ほほえみだより」を送付し定期的に連絡をしている。 	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に「来訪者box」を設置しご意見を頂けるようにしてある。 ・カンファレンス実施の際は、ご家族の意見を十分に聞き取ることができるように2時間程度の時間を設けている。 ・御家族様から何でも言ってくれる関係づくりに、日頃から努め、出された意見、不満、苦情については、ミーティングにて話し合い、反映している。 	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年に4回の個人面談の中で意見を聴く場を設け、運営に反映させている。 ・全体ミーティングでスタッフの意見をまとめ、同月の1か月に1回のリーダーミーティングにて協議をしている。 	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入社面接時にスタッフへ勤務可能な時間を聞き、利用者のニーズにあわせた柔軟な人数配置が出来る様に努めている。 	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を固定化し、顔なじみの関係を崩さぬように心掛けている。 ・離職がやむをえない場合、引き継ぎには、十分な時間を取るように最善の努力をしている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スタッフが自発的に研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。 ・法人外での研修情報をスタッフに回覧板で回し、参加を促している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・ケアマネジャーの勉強会などに積極的に参加をしている。 ・名介研の名古屋市内グループホーム分科会に積極的に参加し、サービスの質の向上への取り組みを行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・有給の消化を積極的に支援をしている。 ・個人の面談の際、不満や、意見などを聞き、問題点は一緒に解決できるように話し合う機会を設けている。 ・会議は、合議制で決めることによって、意見の言いやすい雰囲気を設定している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・個人面談を年4回行っている。その際、自己目標を個人で設定し、前回の面談時の実績を評価し向上心が持てるようにしている。 ・面談実施者は、研修を受け、面談技術向上のため勉強をして面談に臨んでいる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居相談、見学、問い合わせがあった時から、不安や希望、悩みなどを聞く。実際に会う機会をできる限り設け、些細な事にも納得できるような努力を行っている。 ・利用者の自宅へ積極的に訪問させていただき、本人の訴えを聞き、信頼関係を築くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談、問い合わせの段階から、家族の話を傾聴するように努め、家族の思いに合わせた関係づくりに配慮している。 ・生活状態やご本人の求めている事柄を理解し、不安の軽減に努めるように心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談の内容を中立的に吟味し、その人にとって最も必要とされているサービスについて、家族と共に模索するように心掛けている。当施設以外のサービスが、ご本人様・ご家族様にとって、必要な場合は、その他のサービス利用が行えるように支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人とご家族様が、施設に馴染を感じて頂き易くなるように、施設内の喫茶コーナーから利用して頂き、ちょっとコーヒーを一杯飲もうと言った気軽な気持ちから、顔なじみの関係になれるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の「できること」「できないこと」を観察メモによって判断し、日々の生活の場面で利用者が出来ることに関しては、お互いに協力しながら生活が出来るように場面づくりを心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・本人への支援は、スタッフのみならず家族と共に行事ができるように、家族が介護へ参加できる機会(旅行への付き添いなど)を設定している。 ・月1回お便りで状況の定期的な報告と、随時電話連絡を取ることで、本人を共に支える協力関係を構築している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・行事は、施設の一方向的開催ではなく、家族からの発案を取り入れた家族参加型の行事になるように配慮している。 ・利用開始の事前情報聞き取りの際には、家族関係、その人が抱えている生活背景を把握し、これまでの人間関係を出来る限り継続できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの生活がいかにか重要かを契約前に説明し、ご家族様・ご本人様からの聞き取りを丁寧に行うようにしている。 ・馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続ができる環境を整え、生活の一環として取り入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・毎日の昼礼にて、当日の利用者の心身の状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。 ・調理や掃除など、利用者同士が共に助け合う関係を作り出せるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが途切れても、手紙のやり取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのケアの方針について、フロアミーティングで話し合いを設けてかかわり方を見直したり、改善するようにしている。 観察メモを使用し、利用者の思いや状態の把握に努めている。 		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 観察メモを用い、その人の馴染みの環境を把握するように努めている。 ご家族様・ご本人様の会話の中で、折にふれ、馴染みの暮らし方を聞くように心掛けている。 		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 観察メモを用い、ご本人の「できないこと」「できること」「わからない事」「わかる事」を観察し、日々把握できるように努めている。 上記の内容を、フロアミーティングにて話し合いスタッフに情報の伝達と話し合いを設けている。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的または、必要時に行うことによりご本人様・ご家族様・医師・看護師・介護士・ケアマネ・管理者などが参加をして「あなたと、ともに」の理念に沿った利用者本位の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録③にて、ケアプランに沿った介護が行われているかを毎日確認している。 フロアミーティングで実際の支援とプランがあっているか現状を確認することによってチェックしている。 ニーズや、状態の変化があった時には、内容をその都度変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・観察メモを用い、個々の利用者に焦点を当てている。また、観察メモを掲示することにより、スタッフが見て、情報の共有化ができるようになっていく。それにより、ケアプランの変更・見直しの情報源となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・予定日以外の通所や緊急の宿泊・訪問、延長サービス、ご本人・ご家族の要望にこたえられるように臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員会の勉強会に参加し、地域の資源の一つであることを理解していただき地域とのつながりを大切にしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・訪問理美容サービスを利用し、パーマやカラーを楽しんで頂いている。 ・ご本人様・ご家族様の意向に対してサービスの情報を収集し、他のケアマネに相談し、サービス提供に対して吟味し、支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・月に2～3回程度地域包括支援センターに赴き、情報の収集・交換を行い、協働をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受け入れられるようにご家族と協力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・日頃から協力医より治療方針や認知症についての指示や助言をもらっている。困難な事例については、国立長寿医療センターを紹介して頂き、相談・受診を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・協力医療機関の看護婦は、週に2回来所し連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・日頃から、地域の病院とのケースワーカーと頻繁に情報交換を行っている。入院をした際には、窓口の確認・情報交換・今後の相談を円滑に行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・利用者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族様と重度化に伴う支援の方針を話し合うようにしている。 ・重度化・終末期に対する対応指針を定め、対象の利用者に対して、早い段階から、フロアミーティングで話し合いを設けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度や終末期には、医療機関と施設と家族が連携し、本人や家族にとって、安心・納得した最期が迎えられるように密に連携を図れるようにしている。 ・看取り時には、家族や本人に対して、随時意思の確認を行い納得の最期を送れるように対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他の事業所との連携を密にして、情報の交換を行い連絡を密に行っている。また、知りえた情報をもとに、利用者が居心地の良い環境を設定できるように、フロアミーティングで事前情報として伝達をしている。 ・利用開始前に、出来るだけ馴染みの関係となるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・契約時に、個人情報の利用に関する同意書に承諾を頂いている。 ・スタッフは、入社時、個人情報の重要性を説明し、誓約書に承諾をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・行事を行う時には、聞き取りを行い、本人の希望を踏まえた行事になるように心掛けている。 ・意思表示が困難な利用者に対し「はい」「いいえ」で答えられる質問を用いることによって、少しでも自己決定ができるように心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用の前の聞き取りにおいて、ご本人の今までの生活パターンの把握を行うようにしている。 ・基本的な1日の流れはあるが、その人の思いや、状態に配慮しながら、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・行きつけの美容室へ家族に行っていただけのように依頼をしている。 ・訪問美容師とご本人様とで直接パーマやカラーの相談を行い、本人の望む理美容を行っている。 ・レクリエーションにて、美容教室を実施し、本人の基準に合わせた支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立決め、買い出し、食事作り、の一連の行為を利用者が中心となって行っている。調理を通し、作る、食べる、食べてもらう楽しみなどの環境を整えている。 ・実際に調理に参加ができない利用者には「味見など」何らかの形で調理に参加してもらい、ご利用者様に合わせた支援を行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒は、医師への確認を行い、他の利用者とは話し楽しみながら呑むことができる環境を整えている。 ・買い物時には、利用者の馴染みのおやつと一緒に選び、個人の好みや意向に配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・本人の行動の観察「そわそわする」「おなかをさする」などのサインが観察した結果ある場合には、フロアミーティングで報告し、他のスタッフも統一した支援ができるようになってきている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用開始前に、希望する曜日、時間などを聞き取り調査している。また、当日、利用したい時間帯を聞き、できるだけ希望に即した入浴を行っている。 ・入浴をより楽しめるように、入浴剤を使用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・利用開始前に馴染みの明るさなどの聞き取り調査を行っている。入眠時にはダウンライトを使用し、安眠ができるような環境を整えている。 ・利用者が寝付けない時には、テーブルでお話をするなど、気持ちに配慮した支援に心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の状況に合わせて、個々の楽しみや役割を作っている。 ・調理など、その人の得意な分野で役割を提供し、力を発揮することにより、他の入居者から、感謝をされる場面を演出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々に財布を持っている。管理の難しい方には、事務所に管理を行っている。支払は、自分でできるように環境を整えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物などを日常的に行っている。気分に応じて、馴染みの店以外にも足を延ばし気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・行事の一環として日帰り旅行を計画し、外出する機会を増やしている。 ・初詣など季節的な外出も、ご利用者様のニーズに合わせて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・施設の電話を利用する時は、会話が他の利用者に聞こえない場所(個室など)で利用できるように配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問時間などは特に定めておらず、仕事帰りや、ご家族の都合のいい時間に訪問していただけるようにしている。 ・訪問時には、ひらばり茶屋など喫茶スペースを開放し、居心地の良い環境を設定している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入社時の研修の中で「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ機会を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・「鍵」＝拘束につながることをスタッフは入社時の研修で学ぶようにしている。 ・昼礼にて、そそわした行動のみられる利用者の情報の伝達を行い、スタッフは気にかけるようにしている。そのため、鍵をかけずに自由な出入りができるように支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・夜間は、1時間半～2時間毎に巡視をしている。 ・昼間は、キッチンからダイルーム全体が見渡せるようにしている。 ・夜間の休憩は、ドアをあげ、休憩し安全配慮している。(木造建築であるため音で気がつくことができるため)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険物を安易に取り除かず、数の確認や、付き添って刃物を扱うなどの管理方法により危険措置を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故報告書は、記入するだけでなく、その後、フロアミーティングで話し合いを設け、スタッフ全体の課題として取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・「応救手当マニュアル」を事務所に備えている。 ・フロアミーティング内で、急変時の対応について話し合いを設け、技術の向上に取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害時マニュアルに沿って緊急時には行動するようにしている。 ・ご利用者・スタッフおよびその家族の分の食料を3日分確保している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・自由な行動によって事故のリスクは上がるが、安易な行動抑制を行わない事が、行動障害の軽減につながる事を家族へ説明している。 ・カンファレンス、フロアミーティングにて、個々に合わせたリスクについて話し合いを設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタル測定、協力医との連携を図っている。 ・連絡ノートを使用し、医師からの指示や薬の変更など赤字で記入、わかりやすく表記している。 ・昼礼にて体調の悪化をきたしている利用者がいた場合には、伝達を行い、スタッフの共有認識として早期発見の把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を個人ファイルに保管し、必要時には手軽に確認しやすいよう配慮している。 ・フロアミーティングにて、薬の説明書の読み合わせを行い理解を深める努力を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・日中の活動量を増やすことによって便秘の解消につなげている。 ・ヨーグルトを朝食メニューに取り入れることによって便秘の軽減を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯磨きの大切さを利用者へ説明し、毎食後の歯磨きが習慣になるように支援している。 ・利用者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助などの支援を使い分け、確実に口腔ケアが出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取量、食事摂取量を記録している。 ・1日30品目を摂取できるような献立に心掛けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・「感染症予防マニュアル」がある。 ・予防接種を徹底している。家族への確認も行っている。 ・入社時の研修にて「感染予防」のプログラムがある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板は、毎晩時間を決め、雑菌がわからないように漂泊消毒を行っている。 ・定期的に食材の残りの点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関に、ベンチやプランターなどを置く事によって、親しみやすさや安心感を感じてもらえるように心掛けている。 ・玄関に手作りの看板がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアを中心に台所があり、利用者が使いやすい工夫をしている。 ・玄関には、季節感を取り入れたディスプレイを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ひらばり茶屋、家族控室など自由に使える空間が保たれており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができるようになってきている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・宿泊時には、馴染みの道具を持ってきてもらえるようにご家族に協力を依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・供用部以外にも、各居室・脱衣所・浴室にもエアコンを完備。 ・冬季は、加湿器を設置し、湿度が40%以下にならないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・カウンターは、車いすの利用者に配慮した高さとした。 ・浴室の手すりの色には、高齢者が見やすい「赤」を採用し、安全に注意した。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・利用者の残存能力に焦点をあて、『どうすれば分かりやすいか』を状況に合わせて工夫している。 ・混乱や失敗が目立つ時は、ミーティングで話し合い、出来るだけ自立できるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関先にベンチを設置し、日向ぼっこなどができるスペースを設けてあります。 ・ベランダには、通り抜けがしやすいように開口部(窓)が広く開くようになっています。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

観察メモに取り組み、その人の「できること」「できないこと」「わかること」「わからないこと」など日々の状況の把握に努めています。日々の状況の把握の積み重ねが本人のニーズの把握につながり、そんな人らしく地域で暮らしが継続できるとが理念の「あなた、ともに」の実現の近道だと考えています。